

中国海軍ニュース：中国が空母建造準備を加速

漢和防務評論 20181107(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

カタパルト発進方式の上海空母は、上海長興造船所で建造準備作業が進行中です。
衛星写真からは未だ姿は見えませんが、新設された工場内でブロック建造が進行している、と見られます。
また、大連でも同時進行で上海と同型の空母が建造されるとの未確認情報があるようです。



空母関連施設？-1(Google Earth)



空母関連施設？-2(Google Earth)

KDR 東京特電：

月刊漢和誌 4 月号で、同誌は上海長興造船所で空母建造の最後の準備作業が行われている、と報道した。この報道では、雨よけの大きさを分析し、どの会社が入札して雨よけを建設したかを知った。当時雨よけの建設は未完成であった。**KDR** は、雨よけの建造時期、交付の時期から判断して、空母の建造開始は、今年の 8 月前後である、と判断した。今のところ、基本的にこの通りに進んでいる。現在工場地区は、すでに最も警戒嚴重な地域となり、工員は、工場内への携帯電話の持ち込みが禁じられている。4 月以降、長興造船所の空母建造準備作業はさらに加速しつつある。4 号船台では新たな準備作業が進行中である。またあるネット情報によると、すでに空母のブロック建造が進んでいるという。**KDR** 記者が自ら確認したわけではないので、証明することはできない。しかし **KDR** が掌握した情報によると、空母のブロック建造が進行しているという情報は、不思議ではない。カタパルトを採用した空母の絵は、すでに造船重工の執務室に出現している。この絵は、**KDR** が掌握している空母の構造と概ね一致している。現在確認できることは、江南造船所で **055** 型ミサイル巡洋艦の生産規模が拡大中であることだ。第 2、第 3 艘目の生産速度は順調で、第 4、第 5 艘目のブロック建造がすでに始まっている。その上、大連の造船所で建造中の 4 艘或いは 5 艘を加えれば、現在建造中の **055** は 11 艘に達する。

2017 年には、長興造船所の新たな区域に新型工場が完成した(掲載写真参照)。2 つの工場があり、一つ目は、長さ 398m、幅 174m、これは室内船台であろうか？二つ目の新型建築物は、長さ 280m、幅 170m である。4 月以降、新型工場に大型クレーンが建設された。何に使うのであろうか？最新の衛星写真を見ると、ここに空母の船台が建設されるのであろうか？そのようには見えないが。最も可能性があるのは、ここでブロック建造することである。その後、大型ド

ック内で合体する。その方が建造速度は速くなる。別々のドックでブロックの建造が可能である。このように見ると、空母建造のための工場設備は完成したことになる。大型のブロックは、工場内で組み立て、その後、船台或いはドックに運び合体させる。現在は、” 龍骨を設置” するという言葉は、実体を示す言葉ではなく、象徴的な意味の用語でしかない。

武漢に設置された空母模型と中国造船重工の執務室に掲げられた空母の絵から、全体構造が概ね判断できる。上層建築物のレーダー系統は、055 と似ている。早期警戒機を搭載することが最大の特徴である。しかし現在、西安及び漢中の航空機会社を詳細に観察しても、生産はおろか試験飛行さえ開始されていない。したがってこれは、長期計画なのであろう。試験飛行の開始から、部隊装備まで少なくとも 7 乃至 8 年は掛かる。この試験飛行は、最初に興城の空母パイロット試験飛行センターで行なわれる。その後、空母に載せる。しかし現在は、これらの動向は見られない。また興城の空母試験飛行センターには関連施設の建設さえ始まっていない。カタパルトの実験も明らかに開始されていない。

総合すると、造船工場の基礎施設がまさに大々的に建設されているのは事実である。2018 年になって、空母建造の全体の輪郭が明確になってくるのであろう。ある評論家は：江南と大連は、同時にカタパルト空母を建造している、と述べた。これは可能である。ある種の説によると：大連造船所で空母のブロック建造が行われているという。2 つの造船所で同じ型の空母が同時に建造されるのではないかと。055 及び 052D は 2 つの造船所で同時に建造された。問題は、艦載機である。10 年後に、3 乃至 4 艘の空母を保有するとすれば、艦載機だけで、48、48、24 機が必要になる。100 機を超える戦闘機は現在見当たらない。

以上